

大崎地域を世界農業遺産へ vol.24

大崎耕土の知恵のつながり③「農家の営農を支える拠点」

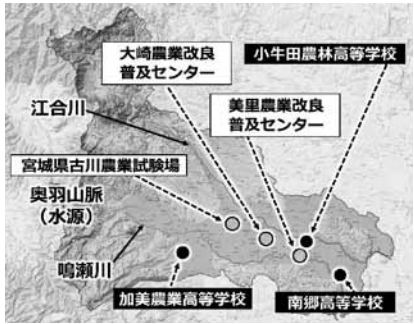
近代以前から育まれてきた大崎耕土の農耕の知恵は、時代の移り変わりに対応し、現代に受け継がれています。大正時代の旧宮城県立農事試験場(旧古川町)からすでに、既存の

水稲67品種と東北・北陸の53品種、計120品種をもとに品種育成が行われてきました。現在の宮城県古川農業試験場では、耐冷性検定用ほ場を活用し、さらなる品種育成が続けられています。そうした努力は、ササニシキやひとめぼれなどの一大品種をはじめ、うるち米42品種、酒造好適米1品種、もち米4品種を育成し、大崎耕土の食文化である餅や酒に適した品種の育成に結実しています。また、栽培技術を研究することで営農の安定にも貢献しています。

▶ 古川農業試験場の耐冷性検定ほ場における試験風景



▶ 大崎地域における農家の営農を支える拠点



加えて、江合川・鳴瀬川流域には加美農業高等学校、小牛田農林高等学校、南郷高等学校の3つの農業高校が設立されました。そこでは農業教育に加え、気象に関する教育に努めるなど、設立当時から冷害や風水害に対応した栽培技術の指導が行われています。その結果、地域農業の優れた担い手と指導者が輩出され、農業システムの継承を人材育成の面で支えています。

さらに、大崎農業改良普及センター(古川地域)や美里農業改良普及センター(美里町)では、大崎地域内の農協と連携した農家向けの講習会の開催や、広報紙による情報提供などが行われています。

農家にとって、これらの取り組みは優れた営農の知恵に出会う機会となり、地域農業の推進に大きな役割を果たしています。このように、大崎地域では、伝統的に培われた農業システムの継承と発展に地域の機関が大きく貢献し、将来へ結びつく体制が構築されています。



【問い合わせ先】産業政策課
世界農業遺産推進室
☎ 23-2281
sangyo@city.osakimiyagi.jp

8月1日現在の大崎市の人口 (単位:人・世帯)

地域	男	前月比	女	前月比	計	前月比	世帯数
古川	38,174	+ 10	39,655	- 2	77,829	+ 8	31,018
松山	2,991	- 9	3,169	- 3	6,160	- 12	2,201
三本木	3,979	+ 3	4,020	+ 2	7,999	+ 5	2,690
鹿島台	5,851	- 2	6,246	- 1	12,097	- 3	4,554
岩出山	5,389	- 9	5,690	- 15	11,079	- 24	4,201
鳴子温泉	2,974	- 12	3,316	- 8	6,290	- 20	2,785
田尻	5,512	+ 3	5,664	- 6	11,176	- 3	3,594
市全体	64,870	- 16	67,760	- 33	132,630	- 49	51,043

☎ 市政情報課統計担当 ☎23-5091

今月の納税

納期限: 10月2日(月)

☐ 軽自動車税	—
☑ 固定資産税・都市計画税	第3期
☐ 市県民税	—
☑ 国民健康保険税	第5期
☑ 介護保険料	第5期
☑ 後期高齢者医療保険料	第3期
☐ 個人事業税	—

☎ 納税課収納担当 ☎23-5148

火災発生件数

(7月末日現在・右欄は前年比)

建物火災	13件	- 11
林野火災	0件	- 1
車両火災	4件	1
その他火災	5件	- 9
合計	22件	- 20

空間放射線量の測定結果

(単位: マイクロシーベルト/h)

8月14日測定	地表面から1m	地表面から0.5m
市役所第2駐車場	0.05	0.05
松山総合支所	0.04	0.04
三本木総合支所	0.05	0.06
鹿島台総合支所	0.05	0.05
岩出山総合支所	0.05	0.05
鳴子総合支所	0.06	0.06
田尻総合支所	0.05	0.05

交通死亡事故件数

(8月15日現在・右欄は前年比)

発生件数	3件	+ 2
死亡者数	3人	+ 2

☎ 防災安全課 消防担当・交通防犯担当・放射能対策室 ☎23-5144

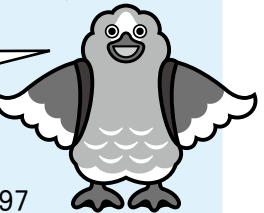
9月号の主な内容

- ④ 感動が心を打つ 大崎の祭り
- ⑧ いきいき百歳体操で元気生活
- ⑩ 市政トピックス 8月の主な出来事
- ⑪ 地域発! お・ら・ほ・の・ま・ち
- ⑫ オオサキプレイガイド
- ⑭ 今月のお知らせ
パブリックコメント ほか
- ⑯ 子育て支援情報
- ⑰ 育児相談・乳幼児健診
- ⑳ 休日当番医 ほか

ピタ崎さんの観光ひとくちメモ

その14

観光プロモーション
ビデオ制作快調!!



☎ 観光交流課 ☎23-7097

大崎市の応援歌はみんなもう聞いてくれたかな? 大崎市応援歌「My Dear 大崎」は、歌詞の中に市の花「ひまわり」、市の木「桜」、市の鳥「マガシ」をはじめ、こけし、トマト、米、酒、温泉といった大崎市の宝物をたくさん詰め込んで、「この場所の全てが大好きなんだよ」って、なまり混じりで元気いっぱいなのとっても楽しい歌なんだ。まだ聞いたことのない人は、市ウェブサイト(<http://www.city.osaki.miyagi.jp/index.cfm/10.20805.25.409.html>)からダウンロードして聞いてみてね! それから、応援歌にあわせて踊る観光PR動画を制作中なんだ。オール大崎市として子どもから大人までみんなで観光に取り組みようという思いを込めて、観光名所や市内各地でたくさんの人と一緒に踊ってもらったよ。ほくも元気がいっぱい踊っているから、完成するのを楽しみに待っていてね。

今月の表紙

大崎市を会場に、全国高等学校総合体育大会相撲競技大会と全国高等学校総合文化祭軽音楽部門が開催されました。8月2日に大崎市市民会館で行われた軽音楽部門では、全国の高校生バンドから選ばれた20組(市内からは古川黎明高等学校が参加)が、個性を生かした演奏を披露しました。

8月4日から6日の相撲競技大会には約300人の学生力士が鳴子スポーツセンターに集結。団体戦は各都道府県代表の46校、個人戦では142人の選手が頂点を競い合いました。大崎地域からは小牛田農林高等学校と加美農業高等学校が出場。全国の猛者を相手に力強い取り組みを見せ、満員の観客を沸かせていました。



軽音楽部門のオープニングを飾る古川黎明高等学校

市長コラム

天地人

久しぶりの中国訪問記

先般、村井知事を代表とする宮城県・吉林省友好締結30周年訪問団に加わり、わたしにとっては5度目の中国吉林省訪問・交流を行ってまいりました。

記念式典会場は、宮城・吉林友誼園(日本庭園の宮城館前)でした。日本庭園は、当時わたしが県議を代表して開園セレモニーに参列した思い出深い施設であり、宮城館は岩出山地域の旧有備館をかたどって建設されたもので、感慨無量でした。

滞在中は経済交流会や観光セミナーも開催され、わたしも本市への観光誘客をプロモーションした。二泊三日のスケジュールでしたが、次なる30年への友好を期す意義のある訪問でした。

わたしと中国との交流は国交正常化直後から始まり、青年交流、農業研修交流、文化交流、議員交流など、40年以上30回を超える訪中の歴史を刻んでまいりました。



大崎市長 伊藤 隆志

訪中歴の中で忘れられない思い出は、1984年(昭和59年)、空前絶後の日中青年3000人交流に招かれ、人民大会堂で中国青年側代表の胡錦濤(後の国家主席)と杯を酌み交わしたことで、その写真はわたしの宝です。行くとともに中国の広さ、深さ、多さ、パワーに驚きを覚え、

「二衣帯水」という故事があります。45年前の日中共同声明の中で表現されて以来、日本と中国の間柄でしばしば使われる言葉で、古くからの付き合い・文化の同源・親密な関係にある隣国という意味で使われます。

今、両国関係は微妙ですが、真の一衣帯水を実現するための必要性を強く感じた訪中でした。